

事業者名

セキュアロジック株式会社

Company Profile
企業概要

クラウド展示会システム「エアメッセ」の開発・販売を行う会社として2014年に平井氏が創業。「エアメッセ」はクラウド環境にて仮想的な展示ブースの出店を可能とした新しいタイプの展示会。企画・デザイン・検証をセキュアロジックが行い、プログラム開発やCGブース制作は協力会社が行う。かながわシニア起業家ビジネスグランプリ2017ベンチャー部門奨励賞受賞。かながわビジネスオーデション2017入賞、日刊工業新聞等メディアへの掲載多数。

代表者名 平井靖

設立年月日 平成26年11月

所在地 〒225-0003
神奈川県横浜市青葉区
新石川4-13-26

従業員数 3名

資本金 500万円

Tel. 045-912-2099

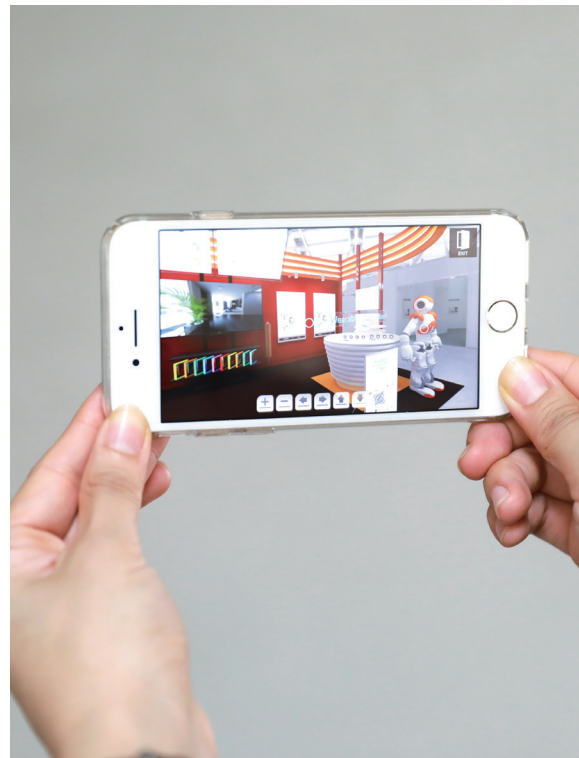
http://www.securlogic.co.jp/

Examiner's Eye
調査員考察

「もっと早く起業すればよかった。若い人はどんどん起業するべき」と平井氏。ものづくり補助金を活用して、やりたいことは挑戦した方がいいとのこと。社会人時代の経験や人脈を生かし、情報収集と行動力でスピーディに事業化した本ケースはシニア起業の見本ともいえる。



▲代表取締役の平井靖氏



▲スマートフォンでも仮想空間が体験できる

事業テーマ

展示会の新たな市場として高度な3D技術を駆使したクラウド展示会場の開発



▲エアメッセのデモブース_視界360度の仮想空間

補助事業のきっかけ

平井氏が会社員時代に数々の展示会に訪問していた際、スケジュールが合わなくて参加できない展示会があった経験から、バーチャルな展示会があれば出店者も便利になると考えたのが開発のきっかけ。その後セキュアロジックを創業し、「エアメッセ」を開発費用を賄うためにものづくり補助金に申請した。

事業概要

クラウド上で仮想的な展示会出展を可能にする「エアメッセ」を発売。3Dで表現された展示ブース上にパネルや商品の展示、動画再生、チラシの配布などが可能。企業ホームページとリアルな出展ブースの中間に位置する新しい広告宣伝ツールとしている。現在は実在する展示ブースを3D撮影しVRに変換するサービスと、新しく展示ブースを4パターンから選択して作るサービスを用意している。

事業化状況

2016年5月に試作版が完成。同年8月から発売開始。日経コンピュータなどマスコミに多数掲載され、現在約10社が実際に仮想ブースを出展中。今後はプロモーションと営業を強化し、販売代理店を増やしながらか出展企業を増やしていく予定。

スタートアップ期を支えてくれた補助金

ものづくり補助金の存在は、起業する前から知っていました。起業したら何かしら国のサポートを活用しようと決めていましたが、いくつか候補がある中でもものづくり補助金が一番の使い道の幅が広く、自社の状況にあっていると思い、応募しました。

平成26年度一次公募では残念ながら落選しましたが、よらず支援拠点の相談員からアドバイスを受け、書類の内容を改善したら2次公募で無事に採択されました。ベンチャーのスタートアップ期は売上はたちませんが人件費等の経費はかかります。その部分を補助金で補えたのは大変ありがたかったです。起業する人は絶対に活用した方がいいと思いますね。

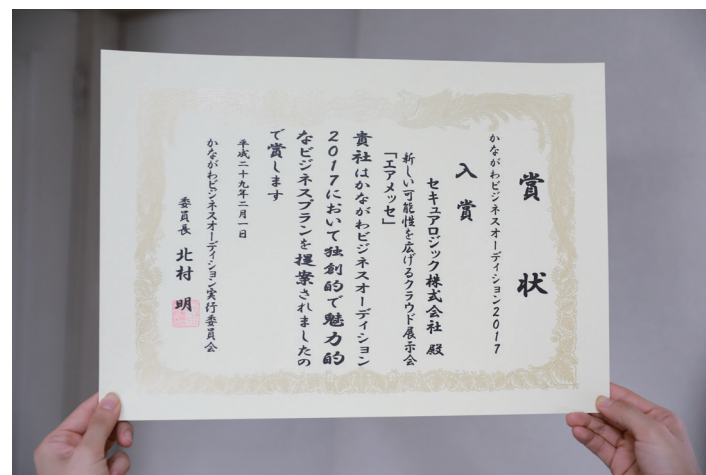
「エアメッセ」のアイデアは2014年に生まれ、会社を作って補助金を申請し、採択から試作品の完成まで約1年半かかりました。調査員の方による審査や調査にかかった時間を差し引けば、実質1年ほどで事業化できたことになります。アイデアさ

えあれば、国のサポートをうまく活用してスピーディに事業を形にできる時代になったと思います。

5年後にはバーチャルな展示会を当たり前に

エアメッセは既に販売中ですが、完成度としては50%くらいだと思っています。まだまだ伸びしろがある。5年後にはエアメッセのようなバーチャルな展示会が当たり前の存在になっているはずなので、その時に100%の完成品が提供できるよう改善を重ねていく予定です。次年度のものづくり補助金にも挑戦したいですね。

中小企業の中には素晴らしい技術やサービスを持っているのに、展示会出展にかかるコストが出せず、商談のチャンスを逃している会社がたくさんあります。そうした企業にエアメッセを活用してもらい、日本国内や海外企業とも商談できる場を提供したいです。また今後はセミナーなどをCGで見ることができるシステムや、英語版



▲かながわビジネスオーデション2017に入賞

ネット上でバーチャルな展示会を開発・販売

3D（三次元）技術を使った展示会ブースを設置できるプラットフォーム「エアメッセ」を開発。リアルな展示会は出店コストが高く期間限定なのに対し、24時間365日いつでもどこからでも仮想上の展示ブースを見ることができなのが特徴。